

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】令和7年4月21日(2025.4.21)

【公開番号】特開2024-67139(P2024-67139A)
【公開日】令和6年5月17日(2024.5.17)
【年通号数】公開公報(特許)2024-090
【出願番号】特願2022-176971(P2022-176971)
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】令和7年4月11日(2025.4.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

演算回路、リードメモリ、リードライトメモリ、乱数値を発生させる乱数回路、及び多項式演算回路を有して遊技の進行を制御する遊技制御手段と、
前記リードメモリは、遊技の進行に関する制御プログラムが記憶された第1記憶手段と、
遊技の進行に関与しない制御プログラムが記憶された第2記憶手段とで構成され、
前記リードライトメモリは、前記第1記憶手段が読み書きする第3記憶手段と、前記第2
記憶手段が読み書きする第4記憶手段とで構成され、
前記第2記憶手段に記憶されたエラー検出プログラムにより検出された異常に応じて前記
第4記憶手段のエラー要因格納領域に、発生したエラー要因をセットし、前記第2記憶手
段に記憶されたエラークリアプログラムにより第4記憶手段の前記エラー要因格納領域に
セットされたエラー要因がクリアされ、
前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因には、前記エラークリアプログラムに
よりクリアされるエラー要因とクリアされないエラー要因とがあり、
前記第2記憶手段に記憶されたプログラムには、前記第1記憶手段に記憶されたプログラ
ムから特定コール命令で呼び出されて処理を実行した後、必ず、特定リターン命令を実行
して呼び出した前記第1記憶手段のプログラムに戻る特定サブルーチンがあることを特徴
とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明の第1の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

演算回路（例えば、メインCPU2101）、リードメモリ（例えば、メインROM21
02）、リードライトメモリ（例えば、メインRAM2103）、乱数値を発生させる乱
数回路（例えば、乱数回路2110、乱数回路2150）、及び多項式演算回路（例えば
、CRC回路（巡回冗長検査（CRC16）回路））を有して遊技の進行を制御する遊技

10

20

30

40

50

制御手段（例えば、主制御基板 2071）と、

前記リードメモリは、遊技の進行に関する制御プログラムが記憶された第 1 記憶手段（例えば、使用領域内 ROM エリア）と、遊技の進行に関与しない制御プログラムが記憶された第 2 記憶手段（例えば、使用領域外 ROM エリア）とで構成され、

前記リードライトメモリは、前記第 1 記憶手段が読み書きする第 3 記憶手段（例えば、使用領域内 RAM エリア）と、前記第 2 記憶手段が読み書きする第 4 記憶手段（例えば、使用領域外 RAM エリア）とで構成され、

前記第 2 記憶手段に記憶されたエラー検出プログラムにより検出された異常に応じて前記第 4 記憶手段のエラー要因格納領域（例えば、「使用領域外エラーフラグ」、「遊技復帰不可能エラーフラグ」）に、発生したエラー要因をセットし、前記第 2 記憶手段に記憶されたエラークリアプログラム（例えば、図 192 に示した使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外））により第 4 記憶手段の前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因がクリアされ、

前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因には、前記エラークリアプログラムによりクリアされるエラー要因（例えば、「使用領域外エラーフラグ」にセットされたエラー要因）とクリアされないエラー要因（例えば、「遊技復帰不可能エラーフラグ」にセットされたエラー要因）とがあり、

前記第 2 記憶手段に記憶されたプログラムには、前記第 1 記憶手段に記憶されたプログラムから特定コール命令（例えば、CALL EX）で呼び出されて処理を実行した後、必ず、特定リターン命令（例えば、RET EX）を実行して呼び出した前記第 1 記憶手段のプログラムに戻る特定サブルーチンがあることを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50